

西光寺だより

第八十号 平成二九年 四月一日発行

だいぶあたたかくなり、春の訪れがようやくやってきました。今年の開花は一週間遅れているようですが、桜の花も咲き始めているのが目で分かるようになってきました。この季節、人生八〇年なら八〇回しか見れない貴重な桜に、親鸞聖人の和歌を思いだすことであります。

『明日ありと 思う心の仇桜 夜半に嵐の 吹かぬものは』

これは、親鸞聖人が九歳の時、仏門に入られる決心をされ天台座主である慈円を訪ねましたが、すでに夜だったので、「明日の朝になったら得度(出家)の式をあげましょう」と言われました。しかし、聖人は「明日まで待たせん」とおっしゃられ、その時詠まれたのがこの歌と伝わっています。

この歌の意味は、「今美しく咲いている桜を、明日も見ることができるとうと安心していても、夜半に強い風が吹いて散ってしまうかもしれない」ということですが、親鸞聖人は、自分の命を桜の花に喩え、「明日自分の命があるかどうか分からない、だからこそ今を精一杯大事に生きていきたい」との思いが込められています。

今は盛大に咲き誇っていますが、夜半に嵐が吹けば桜は一瞬にして散ってしまふ。世は無常であつて、やるべきことは必ずできる時にやって、明日桜を見に行こうというのが如き気持ちではないということ。

四月は新年度です。心機一転、新たな気持ちで新たな生活をはじめていきたいものです。今までは「明日でいい」「まだ大丈夫」と言つて、先延ばしにしていることはないでしょうか？これからは「今を精一杯生きる」ということを目標に、できるだけ先送りせず取り組む生活を送りたいものであります。毎年見ている桜、桜は一切変わらず、見方が変わると思ひも変わること学んだ気が致します。

親鸞聖人のこの和歌は、四月二十八日の団体参拝で行く日野の誕生院の石碑にぎざまれています。是非見ていただきたいと思うことであります。

◆先月の報告◆

三月二十五日(土)西光寺にて仏教婦人会追弔会ならびに総会を厳修致しました。

十一時三十分より追弔会、先にご往生された仏婦の先輩方を偲びながらお焼香、そして正信偈のおつとめをいたしました。

引き続きお話しはあらず中、ちらし寿司をいただき十三時より総会を致しました。わたくしが西河原西光寺にまいりまして、今三代目ご婦人の方々と仏教婦人会を運営しております。月日の流れを思い、こうして今までと同じように迎えられていることに、歴史をつくつてきて下さった先人の方々に改めて感謝申し上げます。

これからも四代・五代の方々と続けられることを期待致しております。

(老坊守)



皆さんでお焼香をしました



● 今月のことば ●

『御文章』は蓮如上人が浄土真宗のみ教えをわかりやすく伝えるためにしたためられた消息体の法語であります。その総数は二五〇余通にも達し、上人のご真筆は五〇余通現存しています。本来『御文章』は御門徒さんの要請にこたえて書かれたもので、読みきかせることが主でありましたが、なかには掛け軸に仕立てられて、共に味読する場合もあつたようです。

今回、御文章でお逮夜参りの際に読む**末代無智の章**の内容について問い合わせがあつたので紹介したいと思います。本文と意識で述べていますので拝読の時には参考にしていただきたいと思います。

【本文】

末代無智の・在家止住の男女たらんともがらは、こころをひとつにして・阿弥陀仏をふかくたのみまいらせて、さらに余のかたへこころをふらず・一心一向に仏たすけたまえと申さん衆生をば、たとい罪業は深重なりとも・かならず弥陀如来はすくいますすべし、これすなわち・第十八の・念仏往生の誓願のこころなり、かくのごとく決定してのうえには・ねてもさめてもいのちのあらんかぎりは、称名念仏すべきものなり、あなかしこ あなかしこ

【意訳】

末法の世にあつて、まことの智慧もなく、在家の生活をしているものたちは、一心に阿弥陀如来をたのみたてまつつて、ほかの仏や菩薩に心を向けず、ひたすらみ仏におまかせしなさい。そのものを、どんなに罪は重くとも、かならず阿弥陀如来はお救いくださいます。これが第十八願（必ず救う 我にまかせよ）、すなわち念仏往生の願のこころです。このように信心を決定した後は、寝てもさめても、いのちのあるかぎりには仏恩報謝の念仏をすべきです。

蓮如上人は阿弥陀如来の名号のはたらきで往生が決まるといわれ、仏恩報謝のお念仏をすべきであると勧められています。

私たちの口で称えるお念仏、それはお救いの間違いないことを喜び、有り難く思つて称える仏恩報謝のお念仏としていただくのであります。それが「かくのごとく決定してのうえには・ねてもさめてもいのちのあらんかぎりには、称名念仏す

べきものなり」の表現で示されています。

南無阿弥陀仏と称えることは仏の徳・ご恩をほめ讃えることになるのですから。

合掌

◆ 四・五月の行事 ◆

・ 四月 十五日（土）

春季永代経法要・追弔会法要

午後一時半～ 追弔会法要

午後二時・七時 春季永代経法要

西光寺本堂

● 本願寺派布教使 植木 政隆 師（速證寺住職）

・ 四月 二十八日（金）

第二五代専如門主伝統奉告法要団体参拝

午後二時より（別紙のとおり）

京都西本願寺

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一―七―二

電話 ○七二―六二二―四七九四

FAX ○七二―六二二―九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>